


(別紙2-1)

令和4年11月14日

二本松市議会議長 様

会派名 中政会
代表者名 熊田義春 

視察・研修報告書

当会派において、下記により視察（研修）を（に）実施（参加）しましたので報告いたします。

記

1 期間 令和4年10月24日（月）～ 月 日（ ）

2 参加者 ① 熊田義春 ② 小野利美

③ 安齋政保 ④ _____

⑤ _____ ⑥ _____

3 視察（開催）地及び視察（研修）内容

別紙のとおり



視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政会
氏 名 熊田義春

○ 月 日 令和4年10月24日(～半日)

○ 場 所 市役所 301 会議室

○ 内 容 ①消費者支援センターの進捗状況。
②小、中学校の現状と教育支援センターの現状
について。

○ 視察・研修の感想

①市における商品(8品目)の価格動向調査をモニター20名が毎月
1日に各品物の価格変化を調べ広報に通知。又、消費者支援
センターへの相談件数と内容に驚き。
②小、中学校の児童、生徒への課題の多さと環境整備
の大切さを新ために知った。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

①消費者支援センターの相談員を少なくとも、も一人
増員すべきである。

②小学校、中学校は、その地域の中心にならざるのど
もって地域の方々を取り込む事業を進めたい
べきである。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政会
氏 名 小野利美

○ 月 日 令和4年10月24日 (～ 日)

○ 場 所 市役所3階

○ 内 容 ① 小・中学校の現状について ② 教育支援センターについて
③ 消費生活センター

○ 視察・研修の感想

義務教育施策と消費者施策について、施策の効果検証、事業の成果などの説明を受け、今後その内容を踏まえた。

小・中学校適正規模検討会では、大規模校・小規模校の視察を行い、それぞれのメリット、デメリットについて意見交換が行われた事などの説明を受けました。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

今後は説明を受けた内容等を踏まえ(整理)市政発展に向けた活動に活かして行きたい。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 市政会
氏 名 安 齋 政 保

○ 月 日 令和4年 10月 24日 (~ /日)

○ 場 所 二本松市役所 3F 301 会議室

○ 内 容 教育委員会, ① 小, 中学校の現状について,

② 教育支援センターについて,

市民部,

① 消費生活モニターについて

○ 視察・研修の感想

② 消費生活センターについて,

〔教育委員会〕いじめ, 不登校, 児童生徒は増加傾向にあるが
解消に向けて, 子ども目線で考え, 困り感に寄り添う支援体制作り
かなされ, 各学校が積極的に取り組まれている状況が感じられた。
統合については, 適正規模等調査検討会が, ひらかれ今後へ
向けての議論がなされていること, コミュニティスクール導入は令和
4年度は6校 順次進めて行くとのことであった。
〔市民部〕市民のニーズと 相談への対応がなされているとのこと。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

〔教育委員会〕いじめ, 不登校が増加傾向ではあるが学校
だけの問題ではなく, 家庭, 家族のあり方や, 若い人達の教
育が, もっと必要である。統合, 十分な議論が必要であ
り子ども達にとって, 何か, もっと大切なものに重点を置き,
新しい, 形の方角性を見つけるべきと思つた。コミュニティ
スクールでは, 文科省などの方針の範囲内でも, 市独自のコミュ
ニティスクールを作つて行くべきである。

〔市民部〕消費生活センター相談内容の複雑化, 多様化
して行く中で特に, 若い人達 (18才以上) のお金, のトラブルなど
に, 注意深く, 対応すべきで, 相談を受けるだけでなく, 解決
に向けて進めるべきと思つた。